

国語プリントNo. ()

配布日 月 日 曜

片桐の国語授業について

2008年改訂版

年 組 番 名前

ルール・連絡

教室移動はすばやく。始業のチャイム以前に着席。

(一) 出欠を取る際に、席にいない場合は欠席、欠課、遅刻。

(二) 遅れた場合は、自分で理由と共に申し出ること。申し出てこない場合は、欠席となる。

座席表通りに着席すること。

(三) 空席者を欠席扱いとする。勝手に席を代わらない。

授業で毎時間用意するものは、教科書・A4ファイル・原稿用紙ノート・筆記用具（黒ペン・赤ペン必要）国語辞典・10分読書の本。

(四) 国語を学習する上で、言葉の意味を確認することは非常に重要なことです。解らない語がある場合はすぐに調べられるような用意をして下さい。

(五) 授業前に用意しておくこと。忘れた場合は、忘れ物回数に数えられる。

配布プリントを閉じるA4ファイルを常に準備すること。

(六) これから、たくさんプリントを配るので、それをなくさないように保管するファイルが必要です。ファイルすることで自分の学習の積み重ね（知識の集積）となる。

(七) 定期的なチェックをして評価をする。

(八) 整理の仕方は単元ごとにまとめ、その単元内でのプリント番号順とする。（配った日付順、プリント順にならないこともあるので注意すること。後日指導します。）

(九) B4プリントの折り方は、半分に折ってさらに4分の1に折る。指定通りでない場合は再提出となります。（末ページに図解あり）

(一〇) 配布プリントは、無くした場合、**再配布しません**。（各自コピーをする。）

(一一) 欠席、公欠などの場合は、次に出席した時に渡すので忘れずに**自分で取りに来ること**。

また、教務室に取りに来ること。ただし、もらいに来るのが遅いとプリントが無くなっている渡せなくなる場合があります。原稿用紙ノートが必要です。

(一二) 全て使い切ったら同じものを各自購入す

るか、片桐から購入すること。（120円）

(一三) 指定ノート以外の課題提出は評価しません。

課題は必ず指示された形式で作業を行うこと。

(一四) 話をよく聞いて、どのように作業をすればいいの考えること。

(一五) 課題の説明で話したことと同じ事は質問されても答ええない。聞き逃した場合、周りの人に聞くこと。

(一六) 文字の形、濃さ、表現の内容によって伝わりにくい場合は再提出となる。

小テストを適宜行う。

授業とは集団で行われる学習行為である。どうして隣に仲間がいながらにして学習行為がおこなわれるのか、その効果を考えること。

(一七) 始業・終業の礼は厳粛なものである。

(一八) 各自授業中に話していい時と話してはいけない時を判断すること（空気を読むこと）。

(一九) 私語・居眠りは学習不参加であり、欠課と同等と見なす。特に教師が全体に説明している時の私語は他人の知識と時間を奪う最も悪質な授業妨害行為である。

(二〇) 飲食・内職は、完全に学習不参加である。

(二一) その時間に教室に入っても授業に参加しなければ、欠席と同じ事である。

学習目標を達成するためにはモラルに反しない限り何をしてもかまいません。

クラス全員が同意し、学習意義のあるものだったら、何でもおこないます。

片桐は基本的に**教務室**にいます。

以上のことで不都合がある場合、合議の上改訂できます。

皆さんの表現作品を ≤ 50 上で公開することがあります。そのときにはプライバシーに配慮して掲載しますのでご了承ください。

課題の種類

「個人課題」……個人ごとに合格を目指す。

「グループ課題」……グループで1つ、またはグループ全員が提出して、グループごとに合格を目指す。

「クラス課題」……クラス全員が提出し、クラス全員が合格することにより評価が得られる。

図形と図標

学校教育の目的……「人格の完成」

国語教育の目標……「日本語の機能を理解し、日本語を適切に使えるようにする。日本語文化の伝承をする。」

自己の中にある専門性（専門教科知識・個性・こだわりなど）は共通言語を使つことにより、一般化し、他者とのつながりを持つことができる。

「学ぶ」ということは、自分の身の回りから吸収するということです。
「勉強する」ということは、「自分のわからないところを見つけて、それをわかるようにする。」ということなのです。

国語はことばを学習する教科です。

ことばの機能

人間が自己や他者、外界物を認識するために必要に迫られて作られたもの。

自己と他者の境界線の一部を取り除き、互いに情報を伝達し、理解できるようにする手段。

強化目標

伝わる作文

はつきり正確に声を出す
テキストにあたる

立派な社会人になるために

期待を上回る

責任を持つ

誰に・いつ・何を・どのように聞けばいいの
か会得する

期待を上回る

不思議な謎かけ「島田亨」

人生の転機に背中を押してくれる友がいると心強い。2004年秋、新球団東北楽天ゴールデンイーグルスの経営に加わってほしいと誘われたとき、「いよいよエンターテインメント産業に進出ですね」と、挑戦を進めてくれたのがレックスホールディングスの西山知義会長だった。

年齢が近く、ゴルフや食事に行ったりする間柄。東京都内の焼鳥屋で一杯やりながらの相談だった。その席で不思議な謎かけをされた。どこかの店で食事をしたりするとき、期待値ってあるじゃないですか。期待値通りならお客さんは満足するでしょうが、それ以上のサービスを受けたらどうなると思います。

私が答えるに詰まると、「感動するんです」と教えてくれた。続けて、「期待値をもっと上回るとどうなると思います」と笑みを浮かべながら尋ねてきた。頭をひねっていると、「感謝されるんですよ」。そして「期待を下回ると不満なのは当然ですが、さらに下回ると、お客にとっても、お店にとっても悲劇です」と諭してくれた。

エンターテインメントの本質とはこれなんだと気づかされた。プロ野球もエンターテインメント産業。そのときに教えられた感動とは、球団経営のキーワードになっている。（「まだ」とある「楽天野球団オーナー」）

日本経済新聞2008.3.22「交遊抄欄」

責任を持つについて

先輩の「学んだこと作文」 参照

誰にいつ何をどのように聞けばいいの
か会得する

後日説明

授業の箇条の心得

名前を呼ばれたら三秒以内に返事をする。（0.2秒を推奨）

授業開始・終了のあいさつは頭を上げ、寄りかからずに立つてからおこなう。

持ち物には黒ペンで名前を明記する。

提出課題におけるノート・プリントへの記入は黒のにじまないペンを使う。

課題を書く上で字を間違った場合はホワイトを使ったり、二重線で訂正し、書き直す。

ノートにおける新たな課題は、日付、名前を右端に記入し、新しいページから書き出す。

評価方法

いわゆる「平常点」がノート・プリント課題のハンコの数、小テストの点数、授業不参加回数で決定していきます。定期考査のペーパーテストは1単位時間50分かけて今までの学習の成果を紙に書きだせるかどうかを測定するものですが、「平常点」は毎時間の学習の成果を蓄積していくものです。

よって、どちらも重要なものです。ペーパーテストと平常点を同程度と見なして各学期、学年末の成績を付けていきます。

また、定期テストの問題を事前に課題として出題し、その結果をテストの点に組み入れる場合もあります。

先輩の「学んだこと作文」

一つ目は現代文の授業で名前を呼ばれた人が黒板の前で自分が考えた三つのことを話すということがありました。全員が合格しないと何度もやり直すというスピーチがありました。自分の考えを人に伝えるというのは恥ずかしいですが、多くの人の前に立ちスピーチをすればそれがいい経験になり、授業以外で多くの人の前に出て何かを話すときに前にも授業で多くの人の前でスピーチをしたからという経験があるので初めの時よりは緊張もしないし上手にスピーチができます。

二つ目に役に立ったことは、テストが始まる前にクラス全員がノート提出という課題が出されました。ノート提出の期限が近づいてくると合格者がだんだん出てきて合格した人はまだ合格していない人にアドバイスができるのでクラスの中に協力性が出てきて積極的に不合格の人のところへ行き、教えてあげていたりクラスの人を気にかけている人がだんだんできてクラスが一つになった感じがしました。初めの頃はみんなが今よりも声を掛け合ったり、心配し合ったりしていなかったけれども、目に見える形でクラスが一つになっていくことはとても嬉しかったし、片桐先生がクラスで何かをする課題をたくさん出してきたおかげでクラスがとても良くなりました。

三つ目に役に立ったことは、小学生の作文を読んだことです。今の小学生がどのような考えや気持ちをしているのかを身近に感じる事ができました。高校生になると教科書以外に小学生の作文を見る機会がないけれど片桐先生の授業では他の学校ではない授業をしていて驚くことがとても多くありました。

四つ目は、人はひとりで生きていけないということです。クラスで協力してわかったけれどもどうしても一人ではできないことが出てきたときは人の助けが必要だったのととても人と人の助け合いや協力が大切なのがわかりました。

自分は国語の授業で、一人では何もできないということ学んだ。片桐先生の授業では、クラス全員で合格しないと不合格になるという課題や、グループ全員で合格しなければならない課題を出す場合がある。それは決して一人ではできない。近くの人からヒントを聞いたり、答えを知っている人から教えてもらったりすることで全員が合格できる。つまり、「情報の共有化」が必要なのだ。「情報の共有化」をしないと、一時間ばかりと過ごすことがあったり、答えを間違えていてクラス全員の人や、グループの人に迷惑をかけてしまう。しかも、「情報の共有化」は非常に便利だ。その問題の答えがわかるだけでなく、周りの人とのコミュニケーションになるのだ。普段、全く話さない

人とも、それがきっかけで話すことができた、協力して課題を解くことで非常に中の良い友だちになれることだ。これは社会に出てても同じだ。会社の同僚や先輩にわからないところを聞く機会はずっとある。その時に、この一年間でやって来た「情報の共有化」をおこなえば、難しい問題もすぐに解決する。

だが、自分はこれをなかなかすることができなかった。だから、何回も読んでいかないと著者の意見や、その文の本当の意味も理解できないということを学んだ。自分はただ単に教科書の文を読むだけで、著者の意見、書かれていることだけではない、著者がこの分で本当に伝えようとしているものを全く読み取ることはしなかった。だが、片桐先生の説明を受けてから、注意深く読むということから、別の観点から着目してみるという生きる上で役に立つことを学ぶことができた。

一点目の提出期限について説明する。高校を卒業したら就職をする。就職したら提出期限をしっかりと守らなければ会社に迷惑になる。会社に入ってから、提出期限を守ると決めても、高校で提出期限を守ることができなかったら、会社でも長続きはしない。片桐先生は、社会の大変さを自分たちに少しでもわかって欲しいから、厳しく提出期限を守らないと、赤点にしたり表にして、誰がやっていないのかを生徒達にもわからせている。

二点目の暗唱について説明する。暗唱は自分の頭で覚え、それを声に出してするから、生きる上で、先生から教えてもらったことを、頭に入れ、声に出すことはかけられたときに、しっかりと声を出せるようにしている。暗唱のテストでは、はっきりと読まなかったり、小さい声を出すと、注意があるので、日常生活でも役に立つ。

三点目の言語楼について説明する。言語楼と出会ったのは高校一年生の時である。最初は何が間違っているのかわからない字があった。その中で自分も同じ間違いをしていることがわかった。社会に出たら、漢字を間違えることは恥ずかしいから、言語楼は毎日毎日大変だったけれど、必要な授業だった。

四点目の片桐授業について説明する。片桐先生は他の先生と違って立派な点がいくつかある。他の先生は、テストの時以外チャイムが鳴って三分や五分遅れてくる先生ばかりだ。でも片桐先生は五回くらいチャイム前に来なかったことがあったけれど、毎日時間前に必ずくる。これは当たり前のことだけれど先生になってまだできない先生はどうかと思う。学校の先生だから、許せるかもしれないけれど、企業では許せる問題ではない。生徒だからという気持ちがあるからである。遅れても、普通に生きて入ってきて、うるさいって言うのは、どうかと思う。注意するなら、自分がチャイ

ムと同時に授業を始められるようにするのが先生としての役割である。

五点目の読書について説明する。10分間読書は自分の好きな本を読めるので、読む本をしっかりと選び、しっかりと読むことが大切だ。漢字もたくさん出てくるし、メリットがたくさんある。三年間国語総合から現代文までお世話くださり、今まで本当にありがとうございました。

一点目は字をきれいに書くことだ。今までは、自分がわかればいいと思っていたし、提出物も、とりあえず出せば良かった。だが自分がわかっても、読む人に伝わらなければ何の意味もないということに気づいた。

二点目は、漢字を使うということだ。どんなに字をきれいに書いても、平仮名ばかりではとても読みづらいし、社会に出たときに漢字が書けないようでは、まわりから浮いてしまうし、恥ずかしい思いをしてしまう。字をきれいに書き、漢字を使うことが大事なことだ。

三点目は、まわりの人に迷惑をかけるいけないことだ。先生の授業には、クラス全員が成功して、何点かもらえる課題や、グループ全員が成功しなければいけない課題がある。その時にまわりの人がやる気を出して頑張っても、一人でも、出さない人がいたら、それだけで失敗になってしまう。最初は「なんか厳しいルールだな」、「あいつとは関係ないから、俺だけ点数をもらえればいい」と思っていたが、それは間違っているし、社会に出れば全部連帯責任なんだから、今、しっかりとやっておかなければならないことだ。人の責任をとれるようになって初めて一人前になる。その前に人に迷惑をかけるようにしておかなければいけない。

四点目は、問題をしっかりと読むということだ。テストの時に問題をあまり読まず、できる問題を間違ってしまうことがある。これは、学校だから、何とかなっているが、会社でこんなことになってしまえば大変なことになってしまう。重要な書類を読むときにミスをしてしまえばとてもないことになってしまう。まずしっかりと文章を読んでから始めることが大切だ。

五点目は、再提出だ。自分はよく再提出になってしまい、それで出すのをやめてしまうが、先生の授業ではその悪いところもおすことができた。

常用漢字の練習についてです。僕は小さい頃から全く漢字を勉強してきませんでした。漢字練習もただただノートに書くだけでした。しかし現代文の授業で常用漢字を書くようになり少しずつではあります。漢字を書くようになり少し他のノートにも漢字が多くなってきたのもよく分かるようになりました。漢字の話にも関係してくるのですが、現代文の授業の始めの「読書」もそ

うです。漢字が嫌いなので本も難しい漢字が出てくるとその場面の感じから読み取ったり、読むのを止めてしまいます。しかし漢字を練習してから本をスムーズに読めるようになりました。しかも、本は漢字だけでなく、「文章を読み取る力」も備わっています。今までマンガ本しか読んでいたのが、僕が、本を楽しく読もうというのは「生きる上で役にたつ」ことです。

今度は文章を読み取る力がつく。文章を「書く力」も付いてきます。本を読み、ある程度の構造が分かるとあとは基本的なことが分かれば作文が書けるようになります。まだ完全とは行きませんが、少しずつ僕の文章力は上がっています。

文章が書けるようになると今度は人に見せて分かるようにしないとけません。作文なのでやはり人に見せなくてはならないと思っています。そこで現代文ならではの「ボールペン」です。僕はボールペンが苦手であり使ったことがありませんでした。字はすぐに消せないし大変だからです。でも将来どこかの会社と何かするときは全てボールペンでやるので、今のうちにボールペンで書くということとはとても大事なことです。そうすると自然にきれいな字で書くという意識が出てきて、相手にも分かりやすく、自分も分かりやすい文章ができるようになりました。僕は今この作文を書いていて全て繋がっているのだと思いました。漢字を練習して書けるようになったら本を読み、本を読んだら文章を書いて、文章を書いたら文章をさらに読みやすいようにする。この一つ一つが僕にとつてとても大事なものだと思っています。どれか一つが欠けてもダメ、この作文に書いた文章全てが僕にとつて「生きる上で役にたつ」ことだと思っています。

